

# Nara Women's University

## 2010年度 4年世界学の実践

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者: 奈良女子大学附属中等教育学校<br>公開日: 2012-06-08<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 落葉,典雄, 永曾,義子, 山口,啓子, 吉田,隆<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/10935/3123">http://hdl.handle.net/10935/3123</a>   |

# 2010年度世界学の実践報告

落葉 典雄・永曾 義子

山口 啓子・吉田 隆

## 1. はじめに

1999年度から継続してきた総合学習「世界学」は、2010年度に最終年度を迎えた。本校では、学習内容と学習方法の転換という新しい時代の要請により、1990年度から総合学習を実施してきた。中学3年生で「奈良学」、高校1年生で「環境学」で始めたが、国際化する社会への対応から、1999年度高校1年生で「世界学」を創設し、「環境学」を中学3年生配当とした。(2000年度から中等教育学校の移行に伴い高校1年を4年と呼称変更)

「世界学」の教育内容は、「貿易ゲーム」などの開発教育における参加型学習教材を使って世界を疑似体験すること、班別に設定したテーマについて調査し発表するフィールドワークを重視した。また、この12年間に、各担当教員が得意な分野を授業する出店授業の創設や評価方法の改革などを行ってきた。それらの内容については、過去の本校研究紀要を参照していただければありがたい。

## 2. 概説

### (1) 目標と計画

1999年の「世界学」創設以来、下記の2つの目標は不変である。

- ①世界には多様な価値観が存在することを認識させること
- ②世界は相互依存関係によって成り立っていることを理解させること

2001年度からは出店授業を導入して以降は、下記の構成について大きな変更はない。

- ユニット1：参加型学習教材によるシミュレーション
- ユニット2：出店授業
- ユニット3：夏休み中課題（ニュースファイル）など
- ユニット4：フィールドワーク（校外での調査活動、以下FW）
- ユニット5：FWの評価と振り返り

### (2) 概要

- ・ユニット1；「貿易ゲーム」「バルンガ（バーンガ）」「ひょうたん島問題」といった開発教育などで行われている参加型学習教材を年間の最初に実施する構成は変えていない。これらは、世界学の構成上欠くことのできない教材群である。
- ・ユニット2；出店授業とは、担当教員の専門性を生かした持ち回り授業である。各教員が自分の専門や興味関心に基づいた授業の店を出し、生徒は各週クラスごとにそれぞれの店をまわっていくからである。本校ではそれを出店授業と呼んでいる。
- ・ユニット3；夏休み中に読んだ新聞記事から5つ選んでスクラップし、コメントを書き、関連事項を調べさせることで、“世界”についての感覚が鈍らないようにすることが主眼である。
- ・ユニット4；1990年度から本校総合学習の中心に据えてきたFWについては、世界学でも継

続してきた。この活動を通じて、生徒たちは簡単には測ることのできない多様な“学力”を身に付けている。このことは、5・6年生や卒業生の声からも検証されている。

- ・ユニット5；自己評価やFWの発表を聞いて総合評価、さらに班内での仕事について、班員同士に評価させ点数を配分させる相互評価も取り入れている。

### 3. 年間実施内容

| 2010年度 世界学年間計画表 |        |   |  |
|-----------------|--------|---|--|
| 回               | 授業日    | 曜 | 内 容                                      |
| 1               | 4月20日  | 火 | 6限オリエンテーション、7限「ダイヤモンドランキング」・「17の質問」      |
| 2               | 4月27日  | 火 | バルンガ                                     |
| 3               | 5月11日  | 火 | 貿易ゲーム                                    |
| 4               | 5月18日  | 火 | ひょうたん島問題①                                |
| 5               | 5月25日  | 火 | ひょうたん島問題②                                |
| 6               | 6月8日   | 火 | 6限のみ：参加型学習ふりかえり                          |
| 7               | 6月15日  | 火 | 出店授業①                                    |
| 8               | 6月22日  | 火 | 出店授業②                                    |
| 9               | 6月29日  | 火 | 出店授業③                                    |
| 10              | 7月7日   | 火 | 出店授業④                                    |
| 11              | 7月13日  | 火 | 夏休み前全体会                                  |
| 12              | 9月14日  | 火 | ニュースファイル(夏休み中課題)発表会                      |
| 13              | 9月28日  | 火 | I期評価                                     |
| 14              | 10月19日 | 火 | FWテーマ決め・班分け                              |
| 15              | 10月26日 | 火 | FWテーマ決め・班分け                              |
| 16              | 11月2日  | 火 | FW①                                      |
| 17              | 11月9日  | 火 | FW②                                      |
| 18              | 11月16日 | 火 | FW③                                      |
| 19              | 11月30日 | 火 | 中間発表(ポスターセッション)                          |
| 20              | 12月14日 | 火 | 「地球のステージ」公演                              |
| 21              | 1月18日  | 火 | FW④                                      |
| 22              | 1月25日  | 火 | FW⑤                                      |
| 23              | 2月1日   | 火 | FW⑥                                      |
| 24              | 2月8日   | 火 | 発表会準備                                    |
| 25              | 2月15日  | 火 | 発表会・相互評価                                 |
| 26              | 2月22日  | 火 | グループ評価・自己評価、総括レポート、「ダイヤモンドランキング」・「17の質問」 |

## 4. 出店授業

2010年度に4人の担当者が行った出店授業から一例を掲載する。紙面の都合で〈資料〉は実際の半分の大きさである。

「旅行計画を通して世界の文化を知ろう」 担当；永曾義子（創作科・家庭）

### ○テーマ設定の理由

グローバル社会の到来で、日本に住んでいると遠く感じる地域で起こった金融危機や紛争、災害などが私たちの生活にダイレクトに影響してくる出来事が多くなってきている。他国の状況が予想外の速さで私たちの生活に影響を及ぼしている。自国の情報や価値観だけでなく、グローバルな視点を持ち、今日の社会情勢を把握していく力を養う必要があると考える。また、海外へも格安料金で渡航できるようになってきた今日、国内と同じような気軽さで海外旅行を楽しむことができるようになってきている。しかしながら、日常生活においては、海外の様々な地域の文化に触れる機会が少ないのが現状である。

一方、生徒たちはちょうど来年の修学旅行先検討真最中の時期である。修学旅行は生徒たちの学校生活において最大の楽しみの一つであり、行き先をどこにするかは最重要課題であろう。そこで生徒たちに海外旅行を計画する機会を提供したい。旅行計画を作成するには、まず旅先の地域の特性・文化・環境・情報等をしっかり把握した上で、楽しく安全な価値ある旅行を提案しなければならない。実はまだ見たこともない地域への旅行を提案し、他者に伝えることには少々違和感を覚えるかもしれない。これまでに経験したことのない価値観に遭遇するかもしれない。旅行計画の楽しさと同時に大変さを体験し、旅行者のための旅先についての情報や心得、適切な時期やおすすめコース、適正価格などについても考える機会としたい。そして、旅行計画について調べ・まとめ・発表し、それぞれの発表に対する感想や旅行計画についてのコメントを考え、居ながらにして海外旅行気分を多少なりとも味わい、世界に向けての興味関心がより深まることを期待したい。

### ○授業目標

- ① 海外旅行を計画し発表しあうことによって、海外の文化や情報を学び、様々な地域の特徴や文化を知り、他国の文化等にも興味関心を持つことができる。
- ② 各班で協力しながら、与えられた情報の中から紹介したい文化や観光等を取り上げ、創意工夫したツアーが企画できる。また、企画したツアーについてうまく発表できる。
- ③ 海外旅行には多くの準備が必要であるが、旅行先の文化の違いや情勢、災害等様々なリスクを想定しながら旅行計画を通して、海外に対する新しい発見や何らかの認識を得ることができる。

### ○授業展開

#### ① 海外旅行計画について

1講座（約30人）で男女混合約5人ずつの6つの班を作り、班ごとに分かれて旅行計画を作成することを告げる。旅行計画を作成する国は、こちらの資料の準備の都合や様々な地域・文化などを考慮して、「中国」・「オーストラリア」・「スペイン」・「トルコ」・「インド」・「韓国」に限定した。各班で希望する国を選び、重複しないようにして旅行計画を作成する国を決定した。旅行計画は班ごとにポスターセッション形式で発表する。発表する際には必ず「ツアータ

イトル」・「時期（期間）」・「価格」・「紹介したい項目5つ」・「旅行する際の心得」を入れることを伝える。今回は、旅行計画を立てやすいように、どの班も旅行者のターゲットと期間を「夏休み中の学生用のツアー」に限定した。そして例として準備した「ハワイツアー」について簡単に紹介してこの取り組み全体のイメージが把握できるようにした。

## ② 海外旅行計画の作成と発表

班ごとに旅行ツアーについての話し合いを開始する。旅行先についての情報は、自分たちで資料収集することが望ましいが、時間が限られているので、十分に旅行先を研究することは難しいと考え、あらかじめ準備した資料を配布した。その国の特徴・文化・暮らし・人種・宗教・環境・観光などの資料やガイドブックの抜粋、旅行パンフレット等である。それらの中から必要事項を選び、ツアーを組み立てていくこととなった。あまり時間がないので、班内でも旅行先の文化・宗教等を調べ、旅行の際のマナーやタブーをまとめる者や、ツアー内容を企画して旅行のメインや観光スポットを考える者、適切な期間や価格、時差などを調べる者など、自然に役割分担ができていた。さらにツアーの大枠が決まると、それをポスターにまとめる者と発表の時の原稿を考える者などに分かれるなど、どの班も限られた時間内にうまく準備できるよう協力しながらポスター発表できるまでに至った。

班ごとの話し合いの様子及びポスター発表の様子は次のとおりである。



## ③ まとめ

ポスター発表を視聴しながら、各班が提案したツアーについての感想や気づいたことなどメモを取り、発表に対する質問があれば質疑応答も行った。生徒たちは意外と知っているようで知らなかったことも多く質問も単純な内容が多かったが、どの班にもツアー内容には工夫がみ

られ、思わず「行ってみたい！」と思わせる魅力的なツアーが出来上がっていた。多少の海外旅行気分も味わいながら、いろいろな国への思いをはせる楽しい瞬間でもあった。世界には様々な国があり文化があり、理解が必要である。これを機会に、さらに今後も世界全体へ視野を広く持とうとするきっかけになればと願いを述べて授業は終了した。2時間で取り組むにはかなりの無理もあったが、生徒たちの頑張りにより短時間で発表までこぎつけることができた。この原動力として、生徒たちには総合学習の成果が根づいていることも感じられた。

### ○生徒の感想

- ・どの国にも行ってみたいと思った。旅行計画を立てることでいろいろな文化を学習できた。
- ・時間がなくて大変だったけど海外の文化とか見どころについて知れるよい機会になった。他の国のことを調べることはよくするけど、ツアーの計画を立てるっていうのはなかなかやらないので楽しかった。
- ・日本では普通のことが外国ではタブーだったりした。日本ではあたりまえが外国では通用しない。他者理解は、自分が正しくてあなたは正しくないなどの差別をなくせると思う。
- ・水道水がダメな国が多くてびっくりした。スペインの治安の悪さにも驚いた。
- ・もっと他の国のことも調べてみたいと思った。短時間で限られた資料しかないので、もっと自分たちで資料も探したりして詳しく調べたかった。

資料1：授業プリントより

|   |
|---|
| 国【オーストラリア】  |
| ツアータイトル【オーストラリア 4泊5日☆】  |
| ツアーの特徴  |
| 期間【4泊5日】 費用【20万円】   |
| 現地との時差【+1時間】<br><small>3つの標準時間帯がある</small>  |
| 旅行する際の心得【治安】【マナー】【人種】【宗教】<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・気候 春9~11月 夏12~2月 秋3月~5月 冬6月~8月 日本に反対</li> <li>・チップは特別なサービスを受けた場合(欧米の文化)の設置は定着していない(20%)</li> <li>・シドニーのオペラハウスはOK</li> </ul> 交通事情があった場合は、ぐいぐい相手の非をせめたいと思わない |
| ＜ツアー内容＞(その国の文化・生活(衣食住)・くらしなどに触れよう)  |
| 朝から飛行機で、つくろ 夕方  |
| ① ハミルトン島のワンツースピリットを見学 1日目<br>とこで3泊  |
| ② ホワイトハブビルディング ハートリーフ見学 2日目<br>上空から見ると♡型になってる。  |
| ③ エアーズロックに、次の日移動します。 3日目<br>アボリジニの聖地です。シドニーに移動します。  |
| ④ シドニーでオペラを見学 4日目<br>ホテルで夜景を楽しむ♡  |
| ⑤   |
| 【組】番号【 】 【氏名】 【 】   |

|  |
|--|
| 感想・気づいたこと  |
| 【インド】 三大宗教めぐり ツアー】<br>ここに来てよかった！ 6泊7日の予定が5泊5日と短くて良かった。インドの日常風景見られるのが良いと思う。 |
| 【中国】 北京・ウラフス ツアー】<br>高級レストランとかに泊まることがすごい。料理に時間がかかるとはしんどそう...               |
| 【オランダ】 スパイン ツアー】<br>パリのほうが良い。1泊2日食べたいと思った。エスプレッソはちゃんと買えないといけない。            |
| 【韓国】 釜山 ツアー】<br>5泊6日いろいろ遊べるのがすごい。学生だから本音に行きたい。                             |
| 【トルコ】 ツアー】<br>お宅訪問はトコトコとよく知ってほしいと思う。<br>豚肉食べないの文化が面白い。                     |

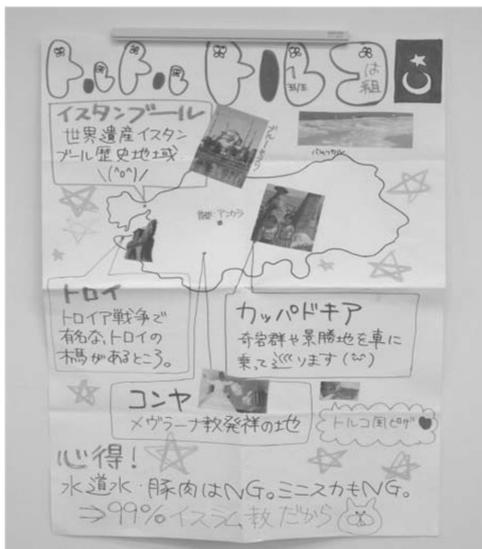
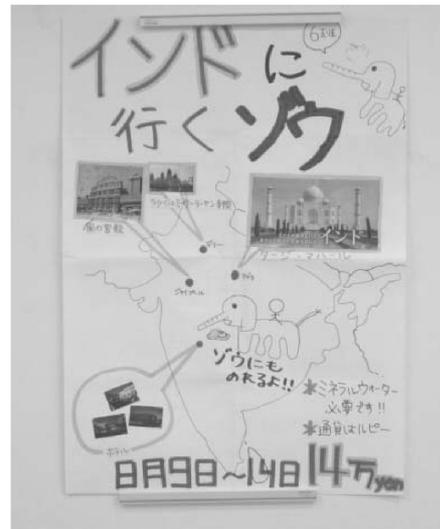
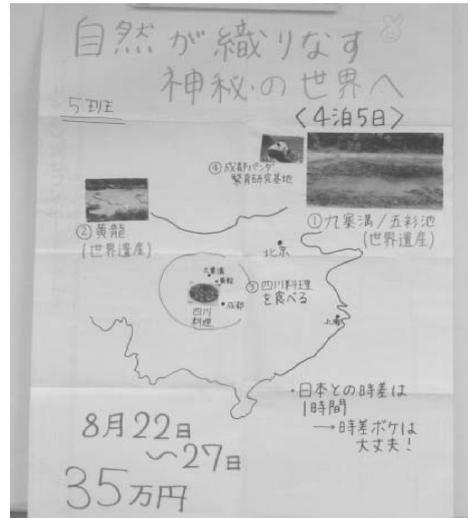
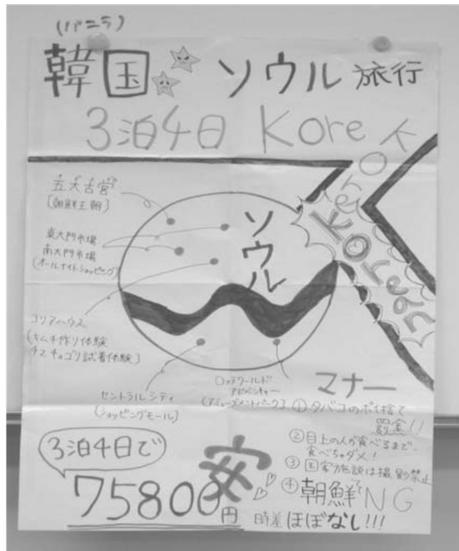
Q1.計画・発表を終えて旅行してみたい国や地域ができましたか？  
 国・地域【 韓国 】  
 理由：空いてサウナ業めとたから

Q2.これから興味を持ってもっと調べてみたいと思った文化は何でしたか？  
 オーストラリア。調べるけど、民族文化のメイン文化が分からなかったから。

Q3.海外の文化との交流はなぜ必要といわれているのだと思いますか？  
 日本にいても同じ地球でも国が違うと全く文化も違うから。  
 他文化を学ぶことには自分の文化を深く知りたいと思えるから。  
 たから。

＜授業の感想＞  
 オーストラリアは季節は真逆で困った。  
 もっと詳しい情報があったけど、リアルのパンフレットだけでいろいろ探さないとできなかった。

資料2：できあがったポスター



## 5. フィールドワーク

ここでは、毎年使用しているFWガイダンスのレジュメと2010年度の一例を掲載する。FWの評価については、2003年度から導入した方法（自己評価と相互評価およびグループ内評価）を継続している。本校研究紀要第45集(2004)に詳しいので参照いただきたい。

### フィールドワーク(FW)ガイダンス

2010.10.19

環境学でのFWの経験を生かして質の高いFWをしよう。「世界の中の自分」をテーマに「多様な価値観」や「相互依存関係」についての認識を深められるよう、しっかり考えて話し合い、調査・考察して発表しよう。また、テーマについて興味・関心や問題意識を持って取り組むだけでなく、自らの意見を持つことと他人の意見を取り入れること、さらに、世界を変える行動へつながるFWをめざしてほしい。

#### ● これからの予定

##### (1) テーマ探し&班分け

いろはに別に分かれて、テーマ探しをしよう。I期の内容や自分の問題意識など、まず、考えを出し合おう。その後、自分の関心のあるテーマに集合。[自分が興味関心を持つテーマを選ぶ]ことが大事!

##### (2) 話し合い(企画と予備調査)

[事前の話し合いがFWの成否の鍵である] テーマの中でそれぞれは何に関心があるのか、問題点は何かなどを話し合い、これからの調査活動についての共通の認識を得ることが大切である。簡単な予備調査が必要となるかも知れない。それに基づいて、全体の計画を立てて役割分担をしてからFWを始めよう。

##### (3) 調査活動

まず、何をどのような方法で調べるか。書籍やインターネットなどからの情報をもとに、実際に聞き取り調査を行うことで何かが見えてくる。[聞き取り調査に重要なのは熱意と誠意である]。実は成否の鍵はここにある。また、立場の違う人々に取材することも真実を明らかにするために重要なことである。

##### (4) 発表

調査・考察・分析した内容をわかりやすく伝えるための発表形態を選ぼう。板書・模造紙・OHP・OHC・パソコン・寸劇・VTR・展示など、[適切な発表方法でプレゼンすることが大切である]。

#### ● FWについての注意

1. 毎回、必ず計画書を担当の教員(いろはに)に提出し許可を得てから行動すること。  
たとえば、班で3つに分かれて行動するときは3枚提出すること。
2. 毎回必ず、FW後または翌日(水曜日)には報告書を担当の教員に提出すること。
3. 学校外へ出ていく場合は、下の(1)～(8)のことに守ること。
  - (1) 訪問する場合、事前に電話で用件・訪問希望日時・参加人数などを知らせ了解を得る。(アポをとる)
  - (2) 調査・取材する内容をよくまとめておく。予備知識がないと訪問先の方々にも失礼である。
  - (3) 訪問先の都合で、「世界学」の時間帯に訪問できるとは限らないので、土曜日や休日などを活用する。
  - (4) 約束した日時をこちらの都合で勝手にキャンセルしてはいけない。
  - (5) 訪問するときは、「フィールドワークについて(お願い)」の文書を担当の先生からもらい持参する。
  - (6) 取材で写真撮影や録画、録音したい場合は、必ず事前に了解を得ておく。
  - (7) トラブルが発生したときはすぐに学校に電話すること。 学校: TEL0742-26-2571 FAX0742-20-3660  
(もしも、大きなトラブルが発生した場合は、警察に連絡する)
  - (8) 休日に訪問する場合や帰宅が遅くなる場合は、保護者に伝えておくこと。

#### ● 今後の日程

|       |              |      |                    |
|-------|--------------|------|--------------------|
| 10/19 | FWガイダンス+FW準備 | 1/11 | 午前中授業              |
| 10/26 | FW準備         | 1/18 | FW5回目              |
| 11/2  | FW1回目        | 1/25 | FW6回目              |
| 11/9  | FW2回目        | 2/1  | FW7回目              |
| 11/16 | FW3回目        | 2/8  | 発表会準備・リハーサル        |
| 11/23 | 勤労感謝の日       | 2/15 | 発表会&相互評価(8限まで?)    |
| 11/30 | FW4回目        | 2/22 | グループ評価・自己評価・総括レポート |
| 12/7  | 中間考査         | 3/1  | 卒業式                |
| 12/14 | 「地球のステージ」    | 3/8  | II期期末考査            |

※日祝日・冬休み・入検休みなども有効に活用すること。

## FW の例

### 「働く」を考えるーインタビュー活動を通してー 担当；山口啓子（英語科）

本校の世界学は、例年4年生（高校1年生）で開講される。文系・理系の進路選択に始まり、高校生となった生徒たちは将来の自分について具体的に考え始める年頃に入る。この時期に、様々な分野で活躍する方の話を聞き、違った価値観に触れることで彼らの将来に繋がるものがあるのではないかと。また、20代の若い世代の方から話を聞くことで、大学での学びから職業選択に至るまでの個人の生き方（世界観）が生徒により身近なものとして伝わるのではないかと。この思いから、卒業生を中心に7名のインタビューイに承諾をいただき、以下の手順でFWを計画した。

1. インタビューイの決定（自己紹介文を用意していただく）
2. インタビューイの自己紹介文をもとに、生徒を7グループに分割
3. 各グループによる挨拶文の作成とインタビュー日程の相談
4. 各グループによる下調べと、インタビューイに合わせたサブテーマの決定
5. 各グループによる質問項目の作成
6. 12月中にインタビューを実施（ICレコーダーで録音、記録をとる）
7. インタビューの文字起こしとまとめ（資料1）
8. ポスター発表（資料2）

インタビューイの方々は海外営業や教員、研究・技術者、医者、人事担当など幅広い分野で活躍されている。生徒にとっては年齢も近く、興味のある分野やそこに行き着くまでの過程を成功・失敗談を含め、ざっくばらんに聞けたようだ。インタビュー後の生徒は、生き生きとした表情で発表準備をしていた。今回のインタビュー活動を通して、他者の物語、価値観に照らし合わせて自分の生き方や働くことについて考えるきっかけを提供できたのではないかと考える。

#### <生徒の感想>

- ・十人十色という言葉があるように人の数だけ道があり、たくさんの世界を知ることができた。そして、たくさんの世界を知ると同時に、自分のこの先の人生についても深く考えることができた。
- ・働く目的については人によって様々であることをこのFWから学べたと思います。「働く」と「学ぶ」ことはとてもよく似ていて、目的をもたなければ何も成すことはできないということをこの世界学から学べたと思います。
- ・自分の仕事が誰かの役に立っていると思えるからこそ、自分の「働く」という価値を見つけられていると思う。
- ・意見・思考が違う人と話すだけでも十分に世界を学ぶことはできる。世界は広い。すべてを学習することは不可能でも、色んな人と触れ合うことはその人の世界＝思考を広げることになるのだと感じた。

於勢さんへのインタビュー

## 文化の違いを考える

担当者 木村仁 木村蘭子 久後麻彩 杉田理珠 中西陽平

### ● プロフィール

於勢奈央子 1986年生 奈良県出身 24歳  
 高2の時に親の事情でサウスカロライナ州レキシントン高校に編入  
 2006年1月サウスカロライナ大学薬学科に入学  
 2009年12月大学卒業  
 1月日本に帰国  
 4月就職  
 ・大学ではマーチングバンド部に入りアメフトの応援をしていた  
 ・現在は(株)ジェイテクトという自動車の部品を扱っている会社で海外向けの営業を担当

1. 外国へ二父の転勤が決まったときどう思いましたか。  
 急でびっくり! 外国は初めてやし、英語は不得意だったので自分は残っていた。
2. 外国に行ったときすぐ馴染めましたか。  
 何を言われても分からなくてなかなか馴染めなかった。普通のアメリカ人しかいない高校(義務教育)だった。でも音楽を通じて助けられた。
3. アメリカ人との文化の違いで驚いたことはありますか。  
 何もかもが違いすぎる。例えば、車で登校することや15歳で仮免が取得できること。しかも16歳で運転しても良いという。また、学校に駐車場がなく、通学のためのバスと電車の便が悪い。(ちなみに18歳で於勢さんは免許取ったそう。免許に関しては、国際免許法があつて2000円で免許取得可能らしい。)また、学校ではみんな授業に積極的だった。お金に関しては、向こうの人は扱い方や価値観が違う。例えば、親の車を借りてガソリンを使用したとすると、帰ってから必ずガソリン代を払う。また、学費以外は自らバイトして用意したり、進学代を自腹で払うもいた。
4. 薬学科ではどのようなことを学びましたか。  
 辞書は手放せない。化学科の人はサウスカロライナなまり(サウスカロライナはディーブサウスと呼ばれる場所である)が強かった。ピアノを小さい頃から習ったり、中学時代も器楽部でフルートをやっていたため、音楽のクラスも取った。
5. マーチングバンドはどんな感じですか。  
 アメリカにはサークルがたくさんあって、マーチングバンドは300人の団体だった。アメフトの試合について行って活動していた。つまり、たくさん遠征があった。アメフトはアメリカでは大人気!

6. アメリカの学校の校風はどのような感じでしたか。

バジャマで登校するような人がいるくらいゆるかった。ただその人たちは学校の寮から通っている生徒だった。また、図書館は24時間開放でそこで寝泊りする人もいた。毎週末にはパーティーが行われ、そこでは踊ったり歌ったりと、とにかく楽しかった。さらに、大学は学部変更が可能で、単位があれば学校変更も可能だった。

7. 日本では就職氷河期に突入していますが、於勢さんはどのタイミングで就職しましたか。

リーマンショック直後に就活した。夏休みだったために就職する機会があまりなかった。また、豚インフルエンザが流行していて、合同就職説明会が中止になってしまった。私は日本が好きなので、どうしても日本で就職がしたかった。I love Japan!

8. 仕事場で海外の会社と話し合いをするとき気を付けていることはありますか。

時差があるため、電話する時間帯に気をつける。またサウスカロライナなまりになりすぎないように気をつけているのと、丁寧語を意識して使っている。

9. 最後にメッセージをお願いします。

色々な事にチャレンジをするのはとても良いことだと思う。視野を広げて、色々なことに首をつっこもう。色々な国の様々な人と関わるのはとても良いこと。英語が使えるのも良いことだ。

### ●感想

- ・ 於勢さんとお話しすることにより普段私たちが触れることのない世界観を知ることができた。もし自分が急に海外に編入することになってしまったらどうしようかと思った。於勢さんは英語が苦手だとおっしゃっていたが、現地の人の愛が於勢さんを救ったのだと思う。人はみんな優しく壁のない生き物なんだと改めて思った。(木村ら)
- ・ 於勢さんの話を聞いて、アメリカと日本の高校生の違いに驚いた。いきなりまったく違う環境になじむのは大変なことだと思う。また英語しか話せない環境だから相当な苦労もあるはずだ。でもそんな雰囲気も味わってみたいと思った。(久後)
- ・ 外国に行くことに興味があるので、於勢さんのお話を聞いてよかった。アメリカではお金に対する価値観が全く違って、見習いたいと思うことが多かった。アメリカの高校について知ることができたので、次は他の国のことも知りたい。(杉田)
- ・ 他の国に行くという経験をもっている人に話が聞けて良かった。日本と他の国の違いには驚くことが多かった。話を聞いて、自分も外国に行ってみたいという気持ちが強くなった。でも、外国に行ったら不安もあるんだろうなと思った。(中西)
- ・ 日本に住んでいる限り、絶対知り得ないようなことが何えて良かった。真剣な話から面白い話まで聞けて良かった。中には将来、自分のためになりそうなこともあり、単純に話を伺えただけではなく知識も得ることができ、参考にもなった。今後にぜひ活かしたいと思う。(木村じ)

